

高校生を対象とした子宮頸がんおよび性感染症の予防啓発教育

七里圭子・香山京美・奥田紗千・村頭温・羽間悠祐

1. 目的・意義

近年、10歳代・20歳代の若年者における子宮頸がんおよび性感染症の罹患率・死亡率が増加している。例えば子宮頸がんの罹患率は20歳台にピークが現れる。またHIVは先進国の中で唯一日本だけが新規罹患患者数の増加を認める。以上の現状を踏まえ、若年者は早期から正しい知識並びに予防・検診方法についての理解を深めることが重要であると考え、この実習は高校3年生に子宮頸がんを含めた性感染症の啓発教育を行うことを主たる目的として行った。

2. 方法・対象

2-1. 事前学習

- 1) 2012年10月：乳がんのレクチャー（田中彰恵先生 草津総合病院保健管理センター医長）
- 2) 2012年11月26日：子宮頸がんおよび性感染症の教育に関する助言（高橋健太郎先生 周産期医療学講座教授）
- 3) 文献・資料による学習

2-2. 啓発教育

2012年11月28日 愛知高校での授業実施

《対象》

愛知高校3年生の生徒（在籍数女子55名・男子39名）を対象に男女別のグループに分け、それぞれ50分で性感染症についての授業を行った。女子は3つのグループに分け、男子は1つのグループとした（出席者女子43人、男子39人）。

《内容》

今回の授業では、高校生に対して女子は特に子宮頸がんを中心とした性感染症について予防と対策について授業をした。男子では避妊や一般的な性感染症、また事前のアンケート調査で関心の高かったHIVについて、少し詳しい内容の講義を行った。

① 授業前後のアンケート調査の実施

授業実施にあたっての参考にするのと、授業により正しい知識を習得できたか確認することを目的に、授業前後でアンケート調査を実施した。

授業前アンケート用紙は、11月上旬に高校に配布・回収を依頼した。

（回収率女子80%、男子85%）

授業後アンケート用紙は、授業の最後に直接配布してその場で回収した。

（回収率男女とも100%）

② 男女別での講義

今回、女子と男子で伝えたいことの内容が異なったため、男女別で授業を実施した。女子の授業は質疑応答をしやすい環境にするために全体を3グループに分けて少人数で行った。男子に対する講義は1グループで行った。

2-3. アンケート調査の内容

アンケート調査の内容については添付資料を参照。

3. 結果・考察

3-1. 結果・考察

事前・事後アンケート調査の結果、授業を通して明らかになったこと、およびその考察を述べる。詳細な数字は添付資料を参照とする。

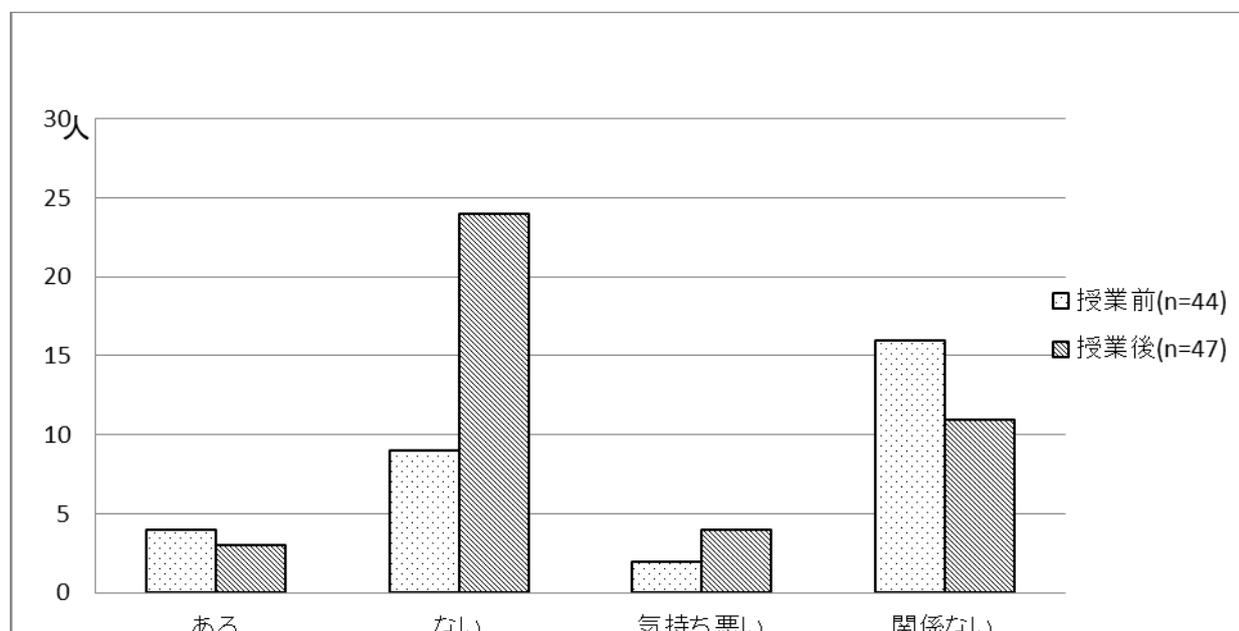
《女子》

〈事前アンケート〉

・性行為に対して興味について

ない、もしくは気持ち悪い、関係ないと答えた生徒が図1に示すように27人(90%以上)であった。これは、生徒たちの性に関する話題に対しての消極的な姿勢を如実に示すものであるので、これを鑑みて、授業を行う際には、授業への導入に気を配り、使用する言葉に注意した。具体的には、性行為は必ずしなければならないわけではなく、また現時点で経験のないことに負い目を感じる必要はないということ、そして、いつか必要になった時のために他人事だと思わず心に留めてほしいということ传达了。これにより、授業に前向きに参加してくれる生徒が増えたと思われる。

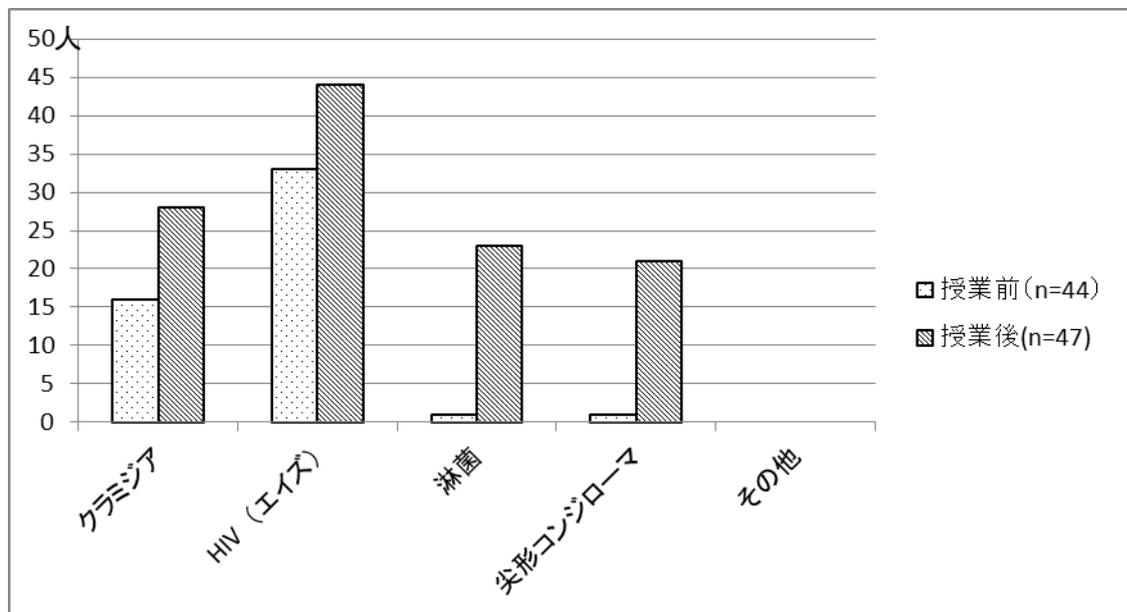
図1 性行為について興味はありますか？



ピルや膣外射精を挙げる生徒が多かったため、授業では特に性感染症の正しい予防に重点を置くこととした。(図2)

・性感染症の予防について

図2 性感染症を予防するためには？



〈事後アンケート〉

・性感染症の予防法について

コンドームであると答えた生徒が、授業前後で有意に増加した。しかし、依然としてピルや膈外射精を挙げる生徒もいた。特に、ピルに関しては9人と数が多く、この原因には、避妊と性感染症の予防が混同されているということが考えられる。これについては、授業でより強調すべきであったし、更に授業で用いたスライドでも紛らわしい表現があるので、次回以降は、この違いをより明確にした授業、そしてスライド作りを心がけるべきであるという反省が得られた。

・子宮頸がんについて

授業後、ワクチン接種を受けに行きたいと答えた生徒は11人であったが、一方で受けないと答えた生徒5人であった。しかし、その理由は、アンケート用紙に記入欄を設けていなかった為、解らなかった。よって、次回からはこれらを踏まえて、接種済み、接種したいと思う、接種したいと思わない、思わない場合はその理由も記述できるようアンケートを作成するべきであると反省が得られた。授業の理解度に関するアンケートでは、まあまあ理解できた、と答えた生徒を含めれば、全員が理解できたとの回答を得ることができた。さらに実際に授業を行い、生徒たちがそもそも性に関する正しい知識に触れる機会が非常に少ないことがわかった。

交流していく中で、自分の体を自分で守ることの大切さを理解している生徒は多かったが、実際に授業などで正しい知識に触れる機会は少なかったようである。特に、子宮頸がんに関しては授業では扱われたことがなく、ワクチンを接種済みの生徒は主に母親や、行政からの通知で接種を決め

たとのことであった。なので、もっと学校教育の中で早期から正しい性に関する知識に触れられるようにすることが重要であると考えられる。ただし、前述の通り、性教育や、そもそも性行為に対してネガティブな考えをもっている生徒が多いことに配慮し、性行為をすることを前提とした授業や、過激な表現を避けるなど、正しい知識を拒否感を持たずに生徒たちが受け入れられるよう工夫を続けて行く必要があると考える。なので、年齢も近くさらに学生の立場で私達が性教育を行った意義は、より授業に親しんでもらえたという点で非常に大きいと思う。

《男子》

〈事前アンケート〉

男子では女子に比べて性行為に興味を持っている割合が高い印象を受けた。また誤った避妊および性感染症予防への認識が多く見受けられたので、授業ではその認識の是正に力点を置く事とした。

また HIV についてほとんどの学生が認知していたので、授業では他の性感染症よりも詳しく扱い、より理解を深めてもらうこととした。

〈事後アンケート〉

授業後アンケートより、性感染症について「よくわかった」52%、「まあまあわかった」45%で、合計97%が性感染症について理解を深めたといえる。

個別の質問について見ていくと、質問「性感染症にはどのようなものがあるでしょう」の回答は図3に示す結果になった。HIVは授業前から認知度が高かったが、その他の性感染症でも認知度が向上した。今回の授業でHIVについては内容を掘り下げて扱ったので、認知度のみならず、病態等について理解を深めたと思われる。質問「性感染症を予防するためには」の回答は、図4に示す結果になった。性感染症予防にコンドームが有用であることと、ピルが予防にはならないことを理解した学生が多かった。

図3 性感染症にはどのようなものがあるでしょう？

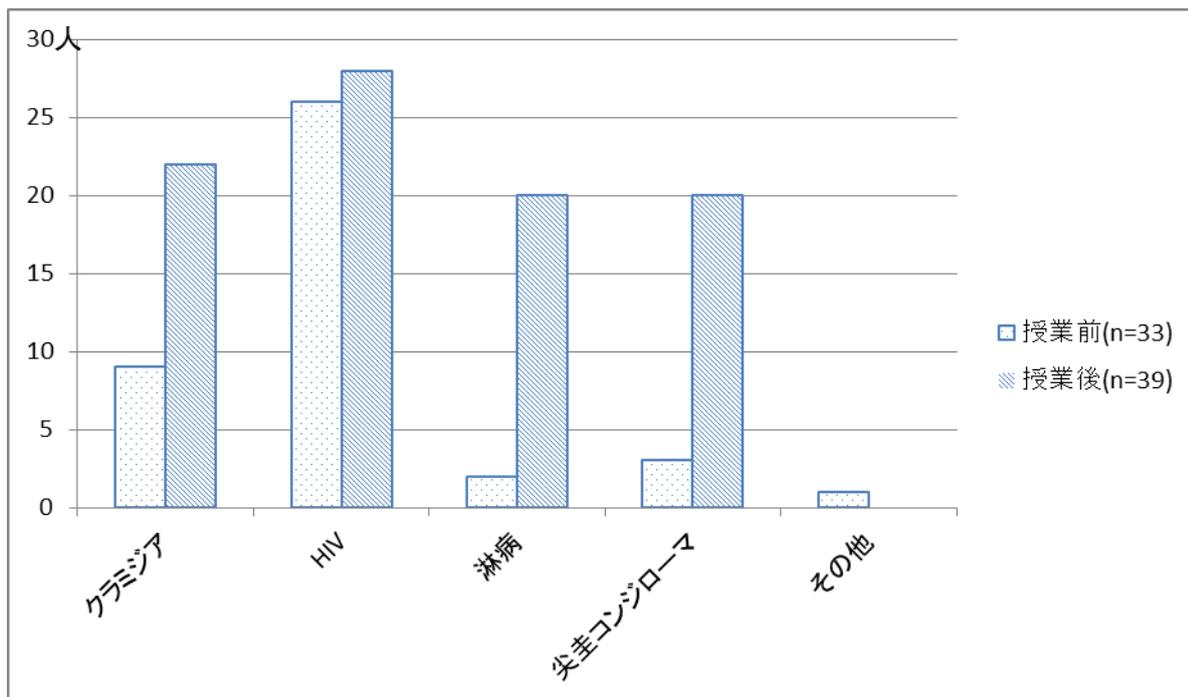
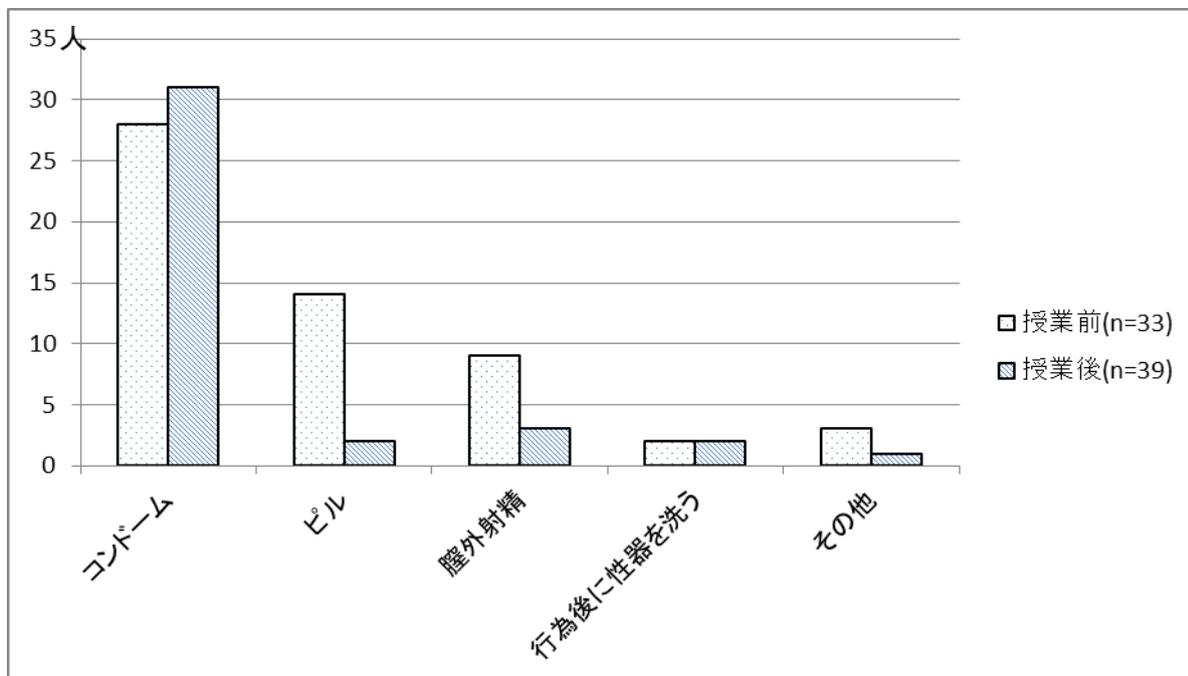


図4 性感染症を予防するには



3-2. 課題

今後の課題として、より若い年代に対して授業を行うことが第一に挙げられる。今回の対象は高校3年生であったが、多くの地方自治体では HPV ワクチンの助成対象外の年齢となる。また既に性行為の経験がある生徒にとっては、このような授業は少し遅いのではないかと感じた。高校の低学年、もしくは中学生に対して授業を行えば、より効果が得られると考えられる。

内容に関しては、授業という形式であったため、全ての生徒に対してそれぞれ十分な情報を届け、理解してもらえたかについては把握しきれていない面があるのかもしれない。だが、実際の医療現場では、適切な情報を理解度を把握しながら伝えていくのは重要なことだと思われるので、そのようなことのできる医者を目指したいと思う。

4. 結論

愛知高校3年生を対象に子宮頸がん・性感染症に関する授業を実施した。アンケート調査結果の授業前後の検討および生徒の反応や質問から、私たちが目標としていた子宮頸がん・性感染症の予防に関する啓発教育は概ね成功したと考えられる。

一方、実際高校生との交流を経て感じたのは、高校生が子宮頸がんや性感染症について正しい知識と接する機会が少ないという実態である。性教育という分野は思春期である高校生に対して取り組みにくい問題ではあるが、この時期の学校教育の中で早期から知識をつける場を積極的に設けることが重要であると思う。

5. 謝辞

今回啓発運動を行うにあたり、性感染症・子宮頸がんについてご助言頂いた高橋健太郎先生（周産期医療学講座教授）、乳ガンのレクチャーおよび草津総合病院保健管理センターの案内・説明をくださった田中彰恵先生（草津総合病院保健管理センター医長）、愛知高校の諸先生方・生徒の皆さん、そして最後に実習を通して私たちにご指導してくださった北原照代先生（社会医学講座衛生学部門）に厚く御礼申し上げます。

6. 参考文献

- ・厚生労働省ホームページ

http://www.gankenshin50.go.jp/campaign_24/outline/rate.html

- ・滋賀県ホームページ

<http://www.pref.shiga.jp/e/kenko-t/gan/gantaisaku.html>

添付資料① アンケート

《授業前》

1. あなたの性別を教えてください。(女子、男子)
2. 性行為 (SEX) に興味はありますか? (ある、ない、気持ち悪い、関係ない)
3. どんな避妊の方法を知っていますか? (複数回答 コンドーム、ピル、膣外射精、性行為後に性器を洗う)
4. 性感染症にはどんなものがあるでしょう? (複数回答 クラミジア、HIV (エイズ)、淋菌)、尖圭 (せんけい) コンジローマ)
5. 性感染症を予防するにはどうしたらいいでしょう? (複数回答 コンドーム、ピルの服用、膣外射精、性行為後に性器を洗う、生理中に性行為)
6. 性について今一番知りたいのは何ですか? 日ごろ先生に聞けないようなことでも何でもよいので、書いてください。

以下は女子のみ回答

7. 子宮けいがんワクチンを知っていますか? (はい、いいえ)
8. 子宮けいがんワクチンを知っている人で、子宮けいがんワクチンはもう受けましたか。まだの人は、受ける予定はありますか? (もう受けた、今後受ける予定、受ける予定、関係ない、分からない)
9. 生理不順が気になりますか? (はい、いいえ)

《授業後》

1. 性行為に興味ある? (ある、ない、気持ち悪い、関係ない)
2. 性感染症を予防するにはどうしたらいいでしょう? (コンドーム、ピルの使用、膣外射精、性行為後に性器を洗う、生理中に性行為)
3. 性感染症って何でしょう? 性感染症について授業を聞く前と比べてよくわかった? (よくわかった、まあまあわかった、わからないことがあった、全然わからない)
4. 性感染症にはどんなものがあるでしょう? (複数回答 クラミジア、HIV (エイズ)、淋菌、尖圭 (せんけい) コンジローマ)
5. コンドームはいつ着ける? (射精する前、挿入の前、性行為の途中、危険日、生理中)
6. 性行為でがんになることはある? (ある、ない)
7・8は女子のみ回答
7. 授業を聞いて、子宮けいがんワクチンを受けようと思った? (まだだけど受けたい、受けないと思う、関係ない、わからない)
8. 生理不順について聞きたいこと・不安なことは解決した? (不安が減った、知りたい事は知れたけどまだ不安、変わらない、以前より不安が増した)
9. 最後に、授業を受けて思ったことを、ご自由に書いてください!!

添付資料② アンケート集計

《女子》

授業前 (n=44、回収率 80%)、授業後 (n=47、回収率 100%)

Q1 性行為に興味はありますか？

	授業前	授業後
ある	4	3
ない	9	24
気持ち悪い	2	4
関係ない	16	11

Q2 性感染症の予防には何があるでしょう？

	授業前	授業後
コンドーム	32	43
ピルの服用	24	9
膣外射精	9	2
行為後に性器を洗う	6	0
その他	2	0

Q3 性感染症って何でしょう？授業を聞く前と比べてよくわかった？

よくわかった	33
まあまあわかった	10
わからないところがあった	0
全然わからない	6

Q4 性感染症にはどんなものがあるでしょう

	授業前	授業後
クラミジア	16	28
HIV (エイズ)	33	44
淋菌	1	23
尖形コンジローマ	1	21
その他	0	0

Q5 コンドームはいつ着ける？

射精する直前	4
挿入の前	38
性行為の途中	0
危険日	0
生理中	0
その他	1

Q6 性行為でがんになることはある？

ある	44
ない	1

Q7 授業を聞いて、子宮頸がんワクチンを受けようと思いましたか？

まだだけど受けたい	11
受けないと思う	5
関係ない	9
わからない	2
(受けた)	14

Q8 生理不順について聞きたいこと・不安なことは解決した？

不安が減った	39
知りたいことは知れたけど、まだ不安	1
変わらない	12
以前より不安が増した	0

《男子》

授業前 (n=33、回収率 85%)、授業後 (n=39、回収率 100%)

Q1 性行為に興味はありますか？

	授業前	授業後
ある	12	15
ない	8	7
気持ち悪い	1	1
関係ない	12	9

Q2 性感染症の予防には何があるでしょう？

	授業前	授業後
コンドーム	28	31
ピル	14	2
膣外射精	9	3
行為後に性器を洗う	2	2
その他	3	1

Q3 性感染症って何でしょう？授業を聞く前と比べてよくわかった？

よくわかった	20
まあまあわかった	18
わからないところがあった	1
全然わからない	0

Q4 性感染症にはどんなものがあるでしょう

	授業前	授業後
クラミジア	9	22
HIV (エイズ)	26	28
淋菌	2	20
尖形コンジローマ	3	20

Q5 コンドームはいつ着ける？

射精する直前	11
挿入の前	24
性行為の途中	2
危険日	0
生理中	0